

「田森を元気にする会」は地元の農業委員（藤原富雄さん）が空き地に住民から譲り受けたこいのぼりを掲げて子供たちの入学を祝い、喜ばれたことをきっかけに結成されました。

「田森を元気にする会」は地元の農業委員（藤原富雄さん）が空き地に住民から譲り受けたこいのぼりを掲げて子供たちの入学を祝い、喜ばれたことをきっかけに結成されました。

「田森を元気にする会」は地元の農業委員（藤原富雄さん）が空き地に住民から譲り受けたこいのぼりを掲げて子供たちの入学を祝い、喜ばれたことをきっかけに結成されました。

「田森を元気にする会」は地域に活力を与えるため、今後自治振興区と連携した夏祭りや新そば祭りなどのイベントを開催する予定です。

農業で地域に活力を 「ぜんざいを食べる会」

昨年十二月五日、圃場整備田の広がる東城町粟田の中心地で、田森を元気にする会主催の「ぜんざいを食べる会」が開催されました。

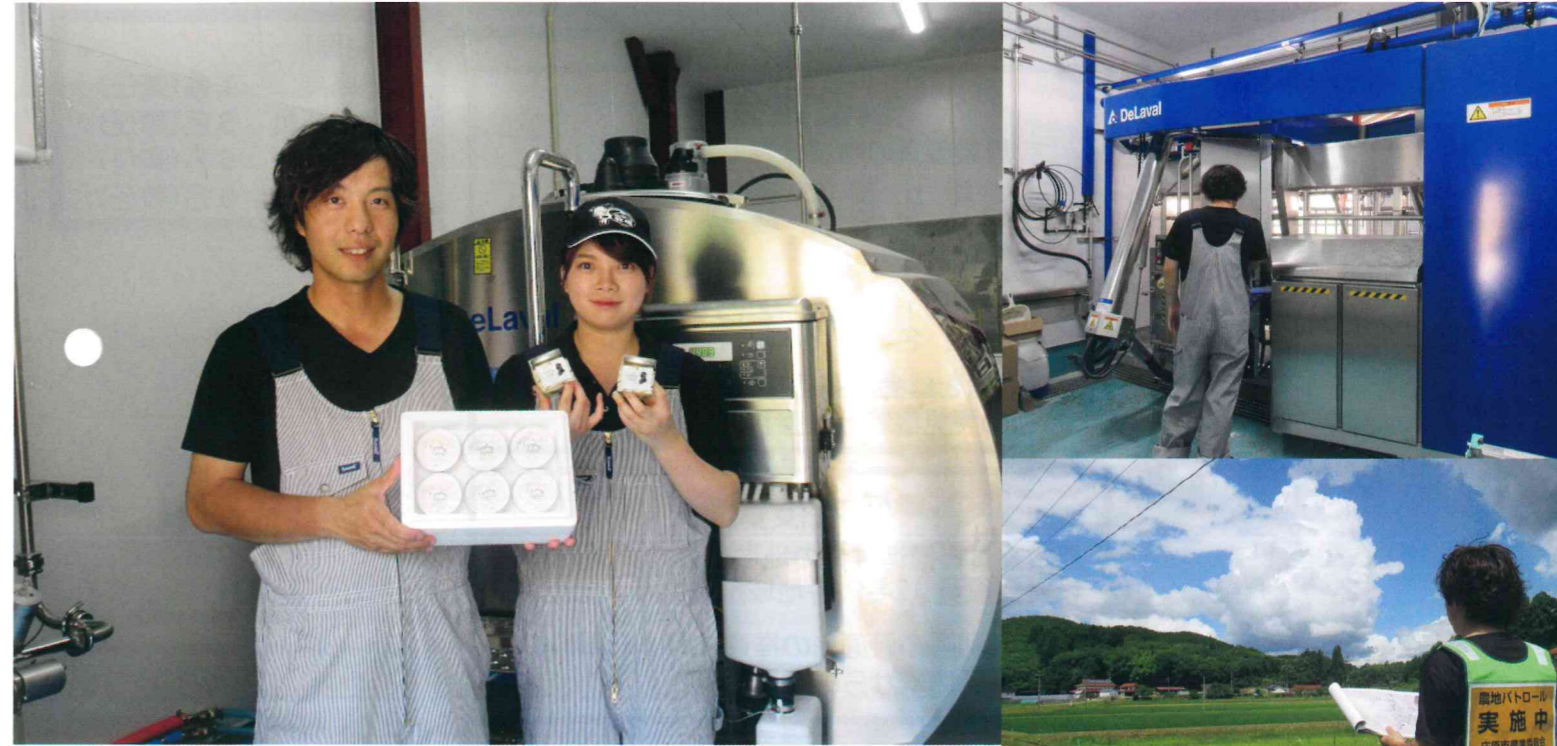
当日は十時から開催され、地域の皆さん百五十名以上の方が集まりました。ぜんざいを作るための小豆や餅にするお米は、地元産です。ぜんざいは地域の女性有志五名の方に前日から作っていただき、地域の若い方々にも配膳等に関わっていただきました。

コロナ禍の中での開催であり、皆さんマスクをしての参加です。同じ地域に住みながらも、久しぶりに顔を合わせてうれしさいっぱいの様子でした。



- 庄原市農業委員会の理念●
- ①担い手への農地利用の集積・集約化
 - ②遊休農地の発生防止・解消
 - ③新規参入の促進

令和4年9月5日(第4号)
編集・発行
庄原市農業委員会 広報委員会
TEL 0824-73-1133(事務局)
FAX 0824-72-3322
mail nougyou@city.shobara.lg.jp



継承を決意しUターン、地域リーダーに

○庄原市口和町で酪農されている田邊賢太さん(33)は、県外に就職しましたが、生まれ育った大自然と小さい頃から慣れ親しんできた乳牛が忘れられず、2014年に家業の酪農を引き継ぐことを決意し地元に戻り就農しました。

2017年より農地利用最適化推進委員に就任、2020年には「たなべ牧場」を設立し、代表者として活躍しています。

酪農では、牛にはクラシック音楽を聴かせ品質にこだわった牛乳を生産、今年は規模拡大にあわせ搾乳ロボットを導入して省力化を進めるとともに、モーモーあいすらんどで製造・販売しているアイスクリームやプリンなどの6次産業の後押しも行っています。

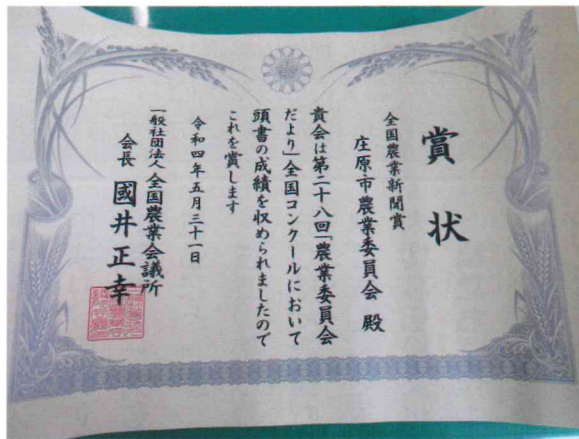
農地利用最適化推進委員の活動としては、地域住民とのコミュニケーションを大切に考え、農地パトロールで休耕地となりそうな情報を得れば、自ら牧草を育て、荒廃農地を発生させない取り組みを行っています。

また、イノシシ等の獣害で困っている住民のため、庄原市口和地域有害鳥獣捕獲班員として、箱ワナを設置するなど農地を守る、若き担い手となっています。

田邊さんは、「牛舎ということで地元の方に環境面においてご協力いただいているところもある。地域に貢献するためにもモーモーあいすらんどを口和の観光名所の1つにしていきたい。」と目を輝かせて抱負を語りました。

「恵みの大地」全国農業新聞賞受賞のお知らせ

恵みの大地春号(令和3年5月20日発行)が第28回「農業委員会だより」全国コンクールで全国農業新聞賞を受賞いたしました。皆様のご支援ご協力ありがとうございました。



広報委員会は農業委員会と市民をつなぐ広報誌としての「恵みの大地」をより魅力的なものにするため、引き続き努めて参ります。

編集後記

今年は、梅雨があつという間にあがったかと思えば、いつまでも戻り梅雨のような雨が続きたり。近年は毎年「記録的」な天候が続いて農家にとっては頭が痛い状況ではないでしょうか。熱中症に気をつけながら異常気象に負けずに頑張っていきたいものです。

